

問1	日本の中央銀行である日本銀行の役割に関する説明として正しいものを、次のうちから1つ選びなさい。 (2023年 宮崎県公立入試 類似)			
	1. 国の税金を直接徴収し、公共事業の予算支出をすべて取り仕切る。	2. 一般の銀行などの金融機関から預金を預かり、資金の貸出を行う。	3. 世の中に流通している通貨の約9割を占める現金を直接発給・管理する。	4. 一般の個人や企業からの預金を受け入れ、個人への資金貸出を行う。
問2	不景気（不況）の際に、日本銀行が実施する「金融政策」の説明として正しいものはどれか。なお、この政策は世の中の通貨量を調整することで景気の安定を図ることを目的としている。 (2025年 北海道公立入試 類似)			
	1. 日本銀行が民間金融機関に国債などを売り、代金を回収することで市場の通貨量を増やす。	2. 日本銀行が公共事業の計画を立て、道路や橋の建設を通じて市場の通貨量を増やす。	3. 日本銀行が民間金融機関から国債などを買い入れ、代金を支払うことで市場の通貨量を増やす。	4. 日本銀行が国民に対して増税を働きかけ、政府が自由に使える通貨量を増やす。
問3	日本銀行が景気回復を目的として、民間の金融機関が保有する国債を買い入れることで、市場に流通する通貨の量を増やす政策を何といいますか。 (2025年 神奈川県公立入試 類似)			
	1. 買いオペレーション	2. 売りオペレーション	3. マイナス金利解除	4. 預金準備率操作
問4	銀行は人々から預かった預金を、資金を必要とする企業や個人に貸し出す「金融仲介」の役割を担っています。銀行がこの活動を通じて利益を得るための仕組みについて説明したものと、最も適切なものはどれですか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)			
	1. 預金者から徴収する口座管理手数料と、日本銀行から受け取る補助金のみを収益とする	2. 預金者に支払う利子の合計を、貸し出しの際に受け取る利子の合計よりも多く設定し、その差額を収益とする	3. 貸し出しの際に受け取る利子の合計を、預金者に支払う利子の合計よりも多く設定し、その差額を収益とする	4. 貸し出しと預金の利子を同額に設定し、企業が利益を上げた際に分配される配当のみを収益とする
問5	銀行、家計、企業の間で行われる資金のやり取りにおいて、銀行が果たす役割と「利子」の仕組みについての説明として最も適切なものはどれですか。 (2024年 島根県公立入試 類似)			
	1. 家計が銀行へ預けた預金に対して、銀行は元本に利子を加えて払い戻し、企業への貸し出しに対しては元本と利子の返済を受ける。	2. 家計は銀行に預金を行うことで、企業の経営に直接参加する権利を得る代わりに、利子を受け取ることができなくなる。	3. 企業が銀行から借りた資金の対価として支払うのは「配当金」であり、これは企業の業績が悪化しても支払額が変わることはない。	4. 銀行は企業から受け取った利子の全額を、手数料としてそのまま政府の財源に充てなければならない。
問6	景気が後退している不景気の際、政府が実施する財政政策と、日本銀行が実施する金融政策の組み合わせとして最も適切な説明はどれですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)			
	1. 政府が公共投資を減らして財政支出を抑え、日本銀行が民間銀行に国債を売却することで市場の通貨量を減らす。	2. 政府が公共投資を増やして仕事や需要を創出し、日本銀行が民間銀行から国債を買い取ることで市場の通貨量を増やす。	3. 政府が公共投資を増やして雇用を安定させ、日本銀行が民間銀行に国債を売却することで金利の上昇を促す。	4. 政府が所得税や消費税の増税を行って消費を抑制し、日本銀行が民間銀行から国債を買い取ることで市場の通貨量を増やす。
問7	日本の中央銀行である日本銀行には、一般の民間銀行にはない特有の役割が3つあります。その役割の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 千葉県公立入試 類似)			
	1. 外国通貨を発行する「国際銀行」、国会議員の政治資金を専門に管理する「政治の銀行」、民間銀行の全ての経営方針を決定する「統括の銀行」	2. 日本銀行券を発行する「発券銀行」、国庫金の管理などを行う「政府の銀行」、民間銀行に対し資金の貸出や預金の受け入れを行う「銀行の銀行」	3. 国債の発行を独占する「国債の銀行」、海外の投資家へ直接融資を行う「投資の銀行」、地方自治体の予算編成を行う「地方の銀行」	4. 日本銀行券を発行する「発券銀行」、公務員の給料を直接振り込む「給与の銀行」、一般の個人や企業が自由に預金できる「国民の銀行」
問8	ある旅行者が、出発前に1ドル100円のレートで2万円をすべてドルに外貨交換しました。旅行中に50ドルを使用し、帰国後に残ったドルをすべて1ドル110円のレートで日本円に戻した場合、手元に戻ってくる金額はいくらになりますか。 (2026年 福島県公立入試 類似)			
	1. 15,000円	2. 11,000円	3. 16,500円	4. 22,000円
問9	日本銀行が「発券銀行」として紙幣の発行を独占的に行い、世の中に出回るお金の量を管理している主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 岐阜県公立入試 類似)			
	1. 日本銀行の利益を最大化し、その利益をすべて社会保障費に充てるため	2. 政府の財政赤字を埋めるために、必要なだけ自由に紙幣を増産するため	3. 民間の銀行に貸し出す資金を無限に確保し、企業の倒産を完全に防ぐため	4. 通貨の価値を安定させ、物価の変動が経済に悪影響を及ぼさないようにするため
問10	銀行は家計から預金として集めた資金を、資金を必要とする企業などに貸し出しています。このとき、銀行の主な収益源となる「利ざや」が発生する仕組みについて、正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)			
	1. 預金金利と貸出金利を同等に設定し、預金の総額が増えることによって利益を得る。	2. 銀行が預金者に支払う預金金利を、貸出先から受け取る貸出金利よりも高く設定する。	3. 銀行が貸出先から受け取る貸出金利を、預金者に支払う預金金利よりも高く設定する。	4. 中央銀行から支払われる補助金を、預金者に利子として分配した残りを収益とする。
問11	かつて行われていた「物物交換」と比較したとき、社会に貨幣が普及したことで得られた経済的な利点として、適切な説明はどれですか。 (2023年 富山県公立入試 類似)			
	1. すべての商品の価値が貨幣の素材（金属など）の重さだけで決まるようになり、価格変動がなくなった。	2. 貨幣自体が食べ物や衣服のように生活に直接役立つため、交換しなくても豊かになれるようになった。	3. 貨幣があれば労働をする必要がなくなり、社会全体の生産性が飛躍的に向上した。	4. 自分の欲しいものと相手の欲しいものが一致しなくても、貨幣を介することで取引が可能になった。
問12	好景気（好況）の局面などで、社会全体の需要が供給を上回り、モノやサービスの価格が全体的に継続して上昇する現象を何といいますか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)			
	1. インフレーション	2. 円高	3. デフレーション	4. スタグフレーション

答え合わせ・解説

問1	答え 2 一般の銀行などの金融機関から預金を預かり、資金の貸出を行う。	日本銀行は「銀行の銀行」としての役割を持っており、一般の個人や企業から預金を預かることはありません。民間金融機関から預金を預かったり、資金の貸出を行ったりしています。
問2	答え 3 日本銀行が民間金融機関から国債などを買い入れ、代金を支払うことで市場の通貨量を増やす。	日本銀行が国債を買い入れる操作は「買いオペレーション」と呼ばれ、その代金が民間金融機関に支払われることで、結果として市場の通貨量が増加します。売りオペレーションは好景気で物価が上がらずにいる時に通貨量を減らすために行われる操作であり、公共事業や増税は政府が行う「財政政策」にあたるため、日本銀行の役割とは区別が必要です。
問3	答え 1 買いオペレーション	不況の際、日本銀行が市場の通貨量を増やして景気を刺激するために行う手法です。日本銀行が一般の銀行から国債を買い取り、その代金を支払うことで、銀行が企業や個人に貸し出せる資金を増やします。この一連の動きにより、世の中に出回るお金の量（マネーストック）が拡大します。
問4	答え 3 貸し出しの際に受け取る利子の合計を、預金者に支払う利子の合計よりも多く設定し、その差額を収益とする	銀行の主な収益源は、資金を貸し出した相手から受け取る利子と、預金者に支払う利子の差額（利ざや）です。銀行が安定して経営を行い、預金を安全に管理し続けるためには、貸出金利を預金金利よりも高く設定する必要があります。企業が株主に利益を分配する「配当」や、事務的な作業の対価である「手数料」とは区別して理解することが重要です。
問5	答え 1 家計が銀行へ預けた預金に対して、銀行は元本に利子を加えて払い戻し、企業への貸し出しに対しては元本と利子の返済を受ける。	銀行は、家計から預かった「預金」に対して利子を支払う一方で、企業への「貸し出し」の際にも利子を受け取ります。一般的に貸し出しの利子率の方が預金の利子率よりも高く設定されており、その差額が銀行の主な収益源となります。これにより、資金が余っている家計から資金を必要としている企業へと、効率的にお金が流れる仕組みが成り立っています。
問6	答え 2 政府が公共投資を増やして仕事や需要を創出し、日本銀行が民間銀行から国債を買い取ることで市場の通貨量を増やす。	不景気のときは民間企業の活動や家庭の消費が落ち込むため、政府は公共事業を増やす財政政策によって直接的な需要を生み出し、景気の下支えを図ります。これに合わせ、中央銀行である日本銀行は民間銀行から国債を買い入れる「買いオペレーション」を行い、代金として現金を供給することで市場の通貨量を増やし、金利を下げて企業が資金を借りやすくなる金融政策を実施します。
問7	答え 2 日本銀行券を発行する「発券銀行」、国庫金の管理などを行う「政府の銀行」、民間銀行に対し資金の貸出や預金の受け入れを行う「銀行の銀行」	日本銀行は、日本で唯一の紙幣発行権を持つ「発券銀行」です。また、国の税金の受け入れや国債に関する事務を行う「政府の銀行」としての役割、そして一般の個人ではなく民間銀行などの金融機関と取引を行う「銀行の銀行」としての役割を担っています。一般の市民が口座を作ったり、公務員の給与を直接支払ったりすることはありません。
問8	答え 3 16,500円	出発時に2万円を1ドル100円で交換すると200ドル（20,000 ÷ 100）になります。そこから旅行中に50ドルを消費したため、残金は150ドルです。帰国時に1ドル110円のレートで円に戻すと、150ドル × 110円 = 16,500円となります。外貨を保有している間に円安（ドルの価値が上昇）が進んだため、円に戻した際の金額が増加した事例です。
問9	答え 4 通貨の価値を安定させ、物価の変動が経済に悪影響を及ぼさないようにするため	紙幣の発行主体が一つに限定されているのは、通貨の供給量を厳格にコントロールするためです。もしお金が増えすぎると、お金の価値が下がって物価が上がる「インフレ」を招き、逆に少なすぎると物価が下がり続ける「デフレ」を招く恐れがあります。日本銀行は「発券銀行」としての機能を活かし、景気の状態に合わせて通貨量を調整することで、物価の安定を目指しています。
問10	答え 3 銀行が貸出先から受け取る貸出金利を、預金者に支払う預金金利よりも高く設定する。	銀行は、資金が余っている家計などから「預金」を受け取り、その資金を必要としている企業などに「貸し出し」を行う金融仲介の役割を担っています。銀行の収益の柱は、貸し出した相手から受け取る利子（貸出金利）と、預金者に支払う利子（預金金利）の差額です。この差額を「利ざや」と呼び、銀行が安定して経営を行うためには、受け取る利子が支払う利子を上回っている必要があります。
問11	答え 4 自分の欲しいものと相手の欲しいものが一致しなくても、貨幣を介することで取引が可能になった。	物物交換では「自分が持っているもの」と「相手が欲しいもの」が完全に一致しなければ取引が成立しませんでした。しかし、貨幣が交換手段として機能することで、いったん商品や貨幣に換え、その貨幣を用いて別の場所や時間で自分が必要なものを手に入れることができるようになりました。このように、貨幣は交換の不一致を解消し、取引を円滑にする背景を持っています。
問12	答え 1 インフレーション	好景気のときには人々の購買意欲が高まり、商品に対する需要が供給を上回ることによって、物価が継続的に上昇します。この現象をカタカナでインフレーションと呼びます。これに対し、不景気の時に物価が下がり続ける現象はデフレーションと呼ばれ、区別して理解する必要があります。